

「消防団の力向上モデル事業」事業紹介

事業名：消防団員の熱中症対策事業

自治体名

青梅市

消防団名

青梅市消防団

1 事業の目的

近年の地球温暖化による猛暑下での活動にあたる消防団員の熱中症対策の一環として、各種装備を着用したまま熱中症の対策が可能な装備を拡充するための事業

2 事業内容

令和6年6月6日から令和7年1月31日間、検討会と実証実験を2回ずつ実施し、様々な団員の意見を聞きながら、配備する装備を検討した。

※左図は、実証実験をするにあたっての、各隊へ配布した説明資料。

熱中症対策用品（水冷ベスト）の試験運用について

1 実施日

令和6年7月28日（日）

※車両運行訓練（午前：ポンプ隊、

午後：可搬隊）内で実施

2 会場

明星大学青梅キャンパス駐車場

3 振り分け

前半	（片面）1・3・5・7分団 （両面）2・4・6・8分団	後半	（片面）2・4・6・8分団 （両面）1・3・5・7分団
午前 9:10～10:20 午後 13:10～14:20		午前 10:40～11:50 午後 14:40～15:50	

※副団長または防災課職員のいずれか1名も着用すること。また、分団内のどの隊が着用するかは事前に分団内で協議願います。

4 運用方法（午前・午後共通）

①役割分担（各隊）

下の3種に役割を分ける。

- A 水冷ベスト+防火衣を着用
- B 防火衣のみ着用
- C 何も着用しない（活動服のみ）

③ベストの交換

休憩時間中に、片面と両面のベストを交換する。
※水の入れ替え（補充）を実施
※防災課対応

④各種聞き取り（記録）

- ・対象者の体温計測
- ・着后感（Aのみ）
- ・着用の要否（いる・いない・ないよりはまし 等）
- ・その他（あれば）
- ※防災課対応

②体温計測

着用前・着用後（30分程度）・着用後（1時間程度）に体温を計測する。

※計測はABCの3名分

※防災課対応

（参考）着用品

3 事業成果

熱中症対策用品の購入と配備（最終）

1 クーリングハーネスおよび保冷剤【納品日：令和7年1月22日（水）】



- ①ハーネス 169個
- ②保冷剤 676個

2 防火衣（ズボン）【納品日：令和7年1月22日（水）】



L 8着
XL 1着

○（分団長）装着イメージ

【防火衣未着用時】



【防火衣着用時】



※防火衣（上衣）は市配備の物を着用

3 編み上げ長靴【納品日：令和6年10月31日（木）】



26.5cm 7足
27.5cm 1足
29.0cm 1足

4 目標達成状況

指標	単位	当初目標	実績値	備考
検討会	回数	2	2	
試験運用（訓練）	隊	3	37	全体訓練の中で実施したことから全ての隊の協力を得られた。
配備数	隊	37	38	団本部分が追加された。

